

広島を思う

教育相談専門員 沼波かおり

大学時代、下宿先の大家さんが突然入院し、しばらく代理の管理人さんになったことがあった。毎月、貸店舗のケーキ屋さんや、アパートの住人のところへ家賃の集金に行ったり、庭の池の掃除や鯉の世話をしたり・・・普通の大学生には味わえないような、さまざまな経験をさせてもらった。アパートの住人の一人がボヤを出し、火事騒ぎになったときには、消防署や警察の人との対応もした。そんなとき、大家さんの親戚のおばさんや、近所の八百屋のおばあちゃん、出入りの電気屋さんのご夫婦、たくさんの大人たちが助けにきてくれた。今では、ほとんどの方は亡くなってしまったが、大切な人たちと過ごした、かけがえのない日々があった。



出会った頃の大家さんは、最愛のご主人に先立たれたショックで、生きる気力をなくし、その後、愛犬クリちゃんと共に、少しずつ前を向き始めていたところだった。還暦(60歳)にはとても見えないほど髪は真っ白で、やつれ果てた感じだったが、昔はさぞかし・・・と思わせる、うつくしい人だった。そして彼女もご主人も「被爆者」だった。ご主人は、ちょっとした風邪をこじらせ、敗血症であっけなく亡くなってしまったという。彼女も被爆のせいで肝臓が悪く、話をするときは、いつもけだるそうに壁にもたれていた。それでもいろいろな話をしてくれた。継母に育てられた少女時代の苦勞。明治生まれの父親の厳しい教育(寝相を整えるため足を縛って寝る習慣)とか、ご主人との馴れ初め(親が相手を決め、夫の顔を見たのは結婚式の時だった)とか、今なら理解できる更年期障害の話とか、そして8月6日の、あの日から始まった地獄の日々・・・黒い雨に打たれながら家族や親戚の人たちを捜し回ったこと・・・。

私が暮らした広島は、緑があふれ、明るく整然とした街だった。けれど一歩中に入っていけば、いたるところに「原爆」のせいで、人生をゆがめられた人たちが生活していた。

オバマ大統領の来訪で、クローズアップされた広島。広島を思うとき、忘れてはならない、長崎、沖縄、パールハーバー、南京、etc・・・。そして今なお、世界のどこかでテロや戦争のため、犠牲になっている普通の人たちのこと。かけがえのない、あたりまえの人生を、だれもが全うできる世の中のために、できることは何だろうか？

☆ カウンセラーの先生方が来校されます ☆

本校には次のカウンセラーの先生方が毎月来校されます。「辛いけれど、どうしていいかわからない」という人、「よく眠れない」「食欲がない」「体調が良くない」などの症状がある人は、ぜひ先生方に相談してみてください。秘密は守られますので安心してください。

《カウンセラーの先生と11月の相談日》

● 沼波 かおり先生 (本校教育相談専門員)

毎週火曜日、木曜日 午後1時～6時40分

● 堀 智哉先生 (各務原病院 臨床心理士)

毎週月曜日、金曜日 午後7時～9時

● 鷲見 栄子先生 (社会福祉士)

11月4日(金)、11日(金)、18日(金)、25日(金) 午後2時～4時

☆ 生徒のみなさんへ…面談は予約制です。HR担任、教育相談係(教育相談室:本館3階)、養護教諭(保健室:本館1階)の先生のいずれかに申し込んでください。

★ 保護者の方へ…カウンセラーの先生との面談は、保護者の方のみでも受け付けます。お申し込みは、定時制教育相談係(長瀬・岩佐・服部)までお願いします。

電話番号は(058)275-7185です。どうぞお気軽に申し込んでください。